発表タイトル	視覚障害者と共に古写本『源氏物語』を 読むための試み
発表者所属名	日本文学研究専攻　教授
発表者氏名	伊藤　鉄也

本ポスター発表は、総合研究大学院大学の他専攻及び異分野からのご教示を期待して参加するものである。

現在、視覚障害者（触常者）の読書活動は受動的である。近年、パソコンの活用により触常者の読書スタイルが多様化し豊かになった。しかし、点字と音声だけでは、過去に遡る文化資源の受容に限界があり、温故知新の知的刺激を実感し実践することも困難である。

そこで、日本の古典文化を体感できる古写本『源氏物語』を素材として、変体仮名で書かれた文字列を触常者が能動的に読み取れる方途を模索することになった。

これは、墨字の中でも平仮名（変体仮名）を媒介として、視覚に障害がない者（見常者）と触常者とが意思の疎通をはかる意義を再認識することにもつながるテーマである。

---------- 今後の計画は次の３点に集約される ----------

１．古写本『源氏物語「須磨」巻』を変体仮名触読シートで読解
（鎌倉中期に書写されたハーバード大学本の影印画像を使用）

２．『変体仮名触読字典「須磨」編』の作成と活用法の構築

３．『点字版古文学習参考書「須磨」編』の作成と学習法の確立

※右下に例示した仮名は「須磨」巻に出てくる和歌の初句「ふるさとを～」。
末尾「を」の字母が現今の「遠」と違い「越」という変体仮名である。
触読を繰り返す中で変体仮名のパターンを体得して学習を進めていく。

触常者が疑似的な古写本（版木や立体３Ｄ文字等）を触読することで、筆写されている変体仮名を識別し、言葉として認識できる環境を創出することを、当面の目標とする。また縦書きが読めるようになれば、触常者の能動的な読字・読書の環境が拡大する。この実現で、触常者の日本文化に対する理解が深まり、見常者と日本の古典文化に関する情報を共有できるようになることが期待できる。

さらにそれを支援するものとして、『変体仮名触読字典』と『点字版古文学習参考書』を作成する。この目的のために、朗読素材も用意し活用する。

これらの実現は、国文学研究資料館が所蔵する約２０万点にも及ぶ古典籍のマイクロ・デジタル画像資料の、新たな触読による活用の道を開くことにもなる。

現在、この課題に協力するメンバーは以下の通りである。

◎広瀬 浩二郎（国立民族学博物館准教授） **◎大内 進**（国立特別支援教育総合研究所客員研究員） **◎中野 真樹**（國學院大學特別研究員） **◎高村 明良**（全国高等学校長協会入試点訳事業部専務理事） **◎岸 博実**（京都府立盲学校教諭） **◎間城 美砂**（国文学研究資料館古典資料目録係職員） **◎淺川 槙子**（国文学研究資料館プロジェクト研究員）